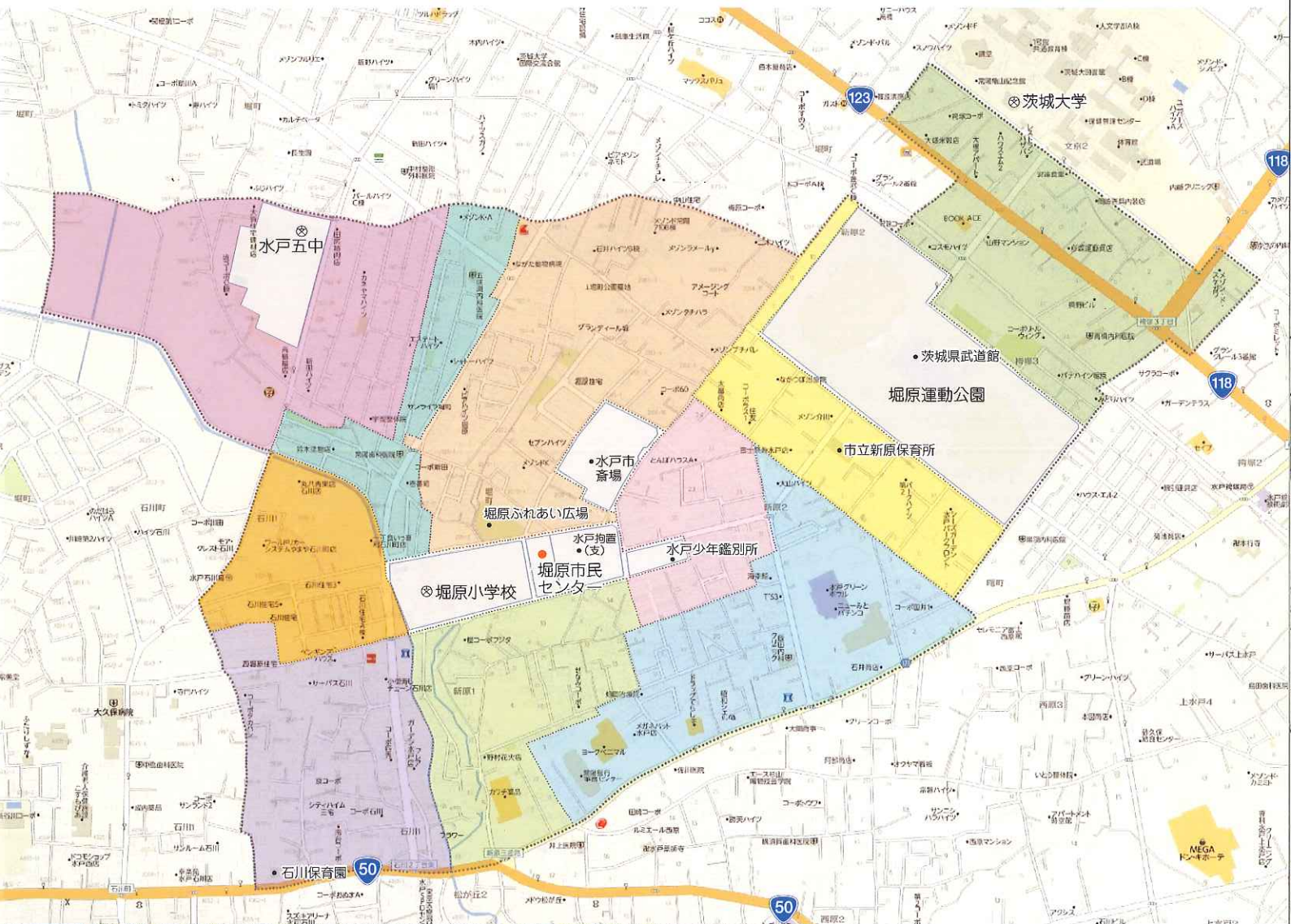


ここに住んでよかった

第1次堀原まちづくりプラン



- みんなで参加する協働のまち
- 安全で安心して暮らせるまち
- 思いやりとやさしさがあるまち
- 「堀原っ子」がのびのび育つまち
- 健康で生きがいのある明るいまち
- 環境にやさしいきれいなまち

みんなで参加する協働のまち

組織
運営

まちづくり本部の立ち上げと拠点の確保

- 地域各団体みんなで協働、連携の本部機能の改善
- まちづくり本部の活動拠点を確保する
- 地域内の自然、施設、人材などの活用
- アンケート等による意見の集約と反映

ひとり役運動の展開

- 町内会加入促進
- 地域内行事を糸口とした積極的参加促進
- 子育てを終えた世代の人材確保組織作り
- ボランティア登録センターの発足

情報の発信強化と活動の記録

- 広報活動の活発化と情報伝達の方法見直し
- 地域の歩みや活動の記録を残す
- ホームページなどインターネットの活用



このプランを進めるために

まちづくりプランをまず問われるのは堀原の自治を、どんな分野で、どのくらい進めていくのか、ということです。大きく進めるためには常駐する事務局の設置や組織の整理、そして、少しずつのお手伝いで多くの人々が参加できる形づくりが必要になると思われます。

思いやりとやさしさがあるまち

地域
福祉

異世代が支え合う

まちづくりプランが必要と言われる背景の1つに、社会の核家族化、少子化、高齢化による地域コミュニティの希薄化があります。行政の施策が求められることも勿論ですが、異世代が支えあって「お互い様」の関係を築きあげている地域も多くなってきています。私たちの堀原にとって望ましいこと、実現できることはどのようなものでしょうか。



あいさつがあふれる地域づくり

- 異世代がふれあい、憩える場づくり
- 地域のあいさつの日の制定
- 助けが必要な人たちの見守り、支援活動

子育て世代支援

- 子育て世代と地域との交流
- 乳幼児育児の支援、相談活動
- 高齢者との交流
- 読み聞かせなどのボランティアの充実

高齢者の生活や生きがい活動支援

- ひとり暮らしの高齢者を支える活動
- 高齢者世帯への声かけ、訪問活動など
- 高齢者の役割、生きがい創出活動

健康で生きがいのある明るいまち

文化
教養
健康

健康、体力づくり運動の推進

- 「市民運動会」の運営、実施方法の見直し
- 変化に富む「歩く会」や健康ウォーキングの開催
- 総合型地域スポーツクラブの調査

「ふるさと堀原」づくりの定着

- 「堀原火の国まつり」の発展的な開催
- 趣向を凝らした「夕涼みの集い」の実施
- 近隣大学と連携した交流イベント等の企画・開催

文化、生涯学習活動の推進

- 堀原大学、カラオケ交流等高齢者クラブ活動
- 芸術祭、お飾りづくり等芸術、伝統文化継承
- 市民センターの講座、クラブへの参加奨励

進化する「まつり」

近隣に大学を擁する堀原地区にとって、若い人は「人的資産」です。まちづくりプラン全般について人材の活用は大事ですが、特に、活気あるイベントには若い人の力を借りたいところです。平成2年に創始された堀原火の国まつりも定着と同時に発展の時期にましかかっているのではないのでしょうか。



まちづくり

未来に向けての

「まことに住んでよかった」と思えるような

安全で安心して暮らせるまち

防災
防犯

防災組織の充実と情報伝達

- 防災組織の見直し
- 災害時の助け合いと連絡体制の整備
- 防災訓練、救命訓練等への参加促進

防犯運動の展開

- 防犯協議会の充実とパトロールの強化
- 子ども見守り活動の強化
- 防犯灯整備の検討
- 不審者情報等の共有化

交通安全環境の整備

- 危険マップの作成と迷惑駐車対策強化
- 自転車安全対策と通学路整備
- 放置自転車の対策

震災の教訓に学ぶ

個人での備蓄などの「自助」、行政による救助のような「公助」、のほかにもう1つ、その中間にご近所の助け合いのような「共助」が必要であること、それが震災の教訓でした。防犯や交通安全とともに、震災の記憶のあるうちに、防災への取り組みを発展させるのが今が好機ともいえます。まちづくりプランの中でも重要な項目ではないでしょうか。



「堀原っ子」がのびのび育つまち

児童・
青少年
育成

地域で子育て

地域の組織や枠組みには、出来たときのままあまり変わっていないものも多い一方で、近年の少子化の影響を最も強く受けているのが子どもをとりまく環境だといえます。「地域の子どもは地域が育てる」ことの必要性は認められていても実現に向けてどのような取り組みが最もよいのか、組織間の連携が問われています。



学びあう活動

- 堀原小、水戸五中と地域との連携
- 地域からの人材派遣やクラブ活動支援
- 学校の空き教室などを活用した交流事業

助け合う活動

- PTA、子ども会、青少年育成会への支援
- 地域事業への子どもの役割づくり
- 昔遊び、郷土歴史学習等地域との交流
- 児童虐待や不登校を防ぐための見守り

きたえ合う活動

- スポーツ少年団、地域スポーツグループとの連携
- 放課後の子どもの居場所づくり

環境にやさしいきれいなまち

環境
美化

住みよい環境づくりの推進

- 地域内一斉美化清掃、違反広告物撤去等の活動
- 市民センター等清掃奉仕活動
- 犬の散歩マナーアップ運動

花のあるきれいなまちづくり運動

- 花いっぱい運動と緑を守る活動
- 堀原の桜を保全し、桜を活用した活動
- 他地域と連携した沢渡川の保全、親水公園化への取り組み

ごみのない環境にやさしい生活の推進

- ごみ減量と環境問題を意識した研修会開催
- ルールどおりのゴミ出しの徹底
- 資源ごみの回収などリサイクル運動
- 緑のカーテンづくり運動

桜・公園・川を活かす

地域の自然や施設を「財産」と考えるなら、堀原には運動公園から小学校にかけての施設とその敷地内の桜、そして沢渡川があります。環境美化はどの地域にとっても不可欠な課題です。堀原地区にとっても、「財産」を活かしたまちづくりが課題であると考えられます。



時代が求める「コミュニティプラン」

～第1次堀原まちづくりプランができるまで～

東日本大震災以降「きずな」の大切さが強く叫ばれるようになった。一方で、家族構成も2世代が大多数となり、3世代が同居する家も少数となった。

大震災後の復旧に一番大切だったのは近隣の助け合いであった。この「きずな」がなければあんなに早く復旧が進むことは出来なかったでしょう。

行政に携わる人々もまたご近所の住人なのです。ご近所の力がなければ地域の活性化は望めません。自分自身で行動し、みんなの協働で、自分たちの住む町を作って行くことが大切ではないでしょうか。

水戸市は「新コミュニティ推進計画」のもとに「コミュニティプラン作成」のための研修会を開催し、私たち堀原地区でもこの研修会に参加しました。

堀原地区では平成23年に「コミュニティプラン作成」のための検討委員会を立ち上げ、前年度の参加者が再度研修会に出向き、具体的な地域活性化のための課題のまとめ方、基本的な構成手法などの指導を受けました。翌24年には幅広い世代の人たちに声をかけ、27名からなる「堀原まちづくりプラン策定委員会」をスタートさせました。市民センターで月1回、主要課題を3グループに分け、それぞれの担当分野で内容を練り上げていく、ということをして1年続けました。

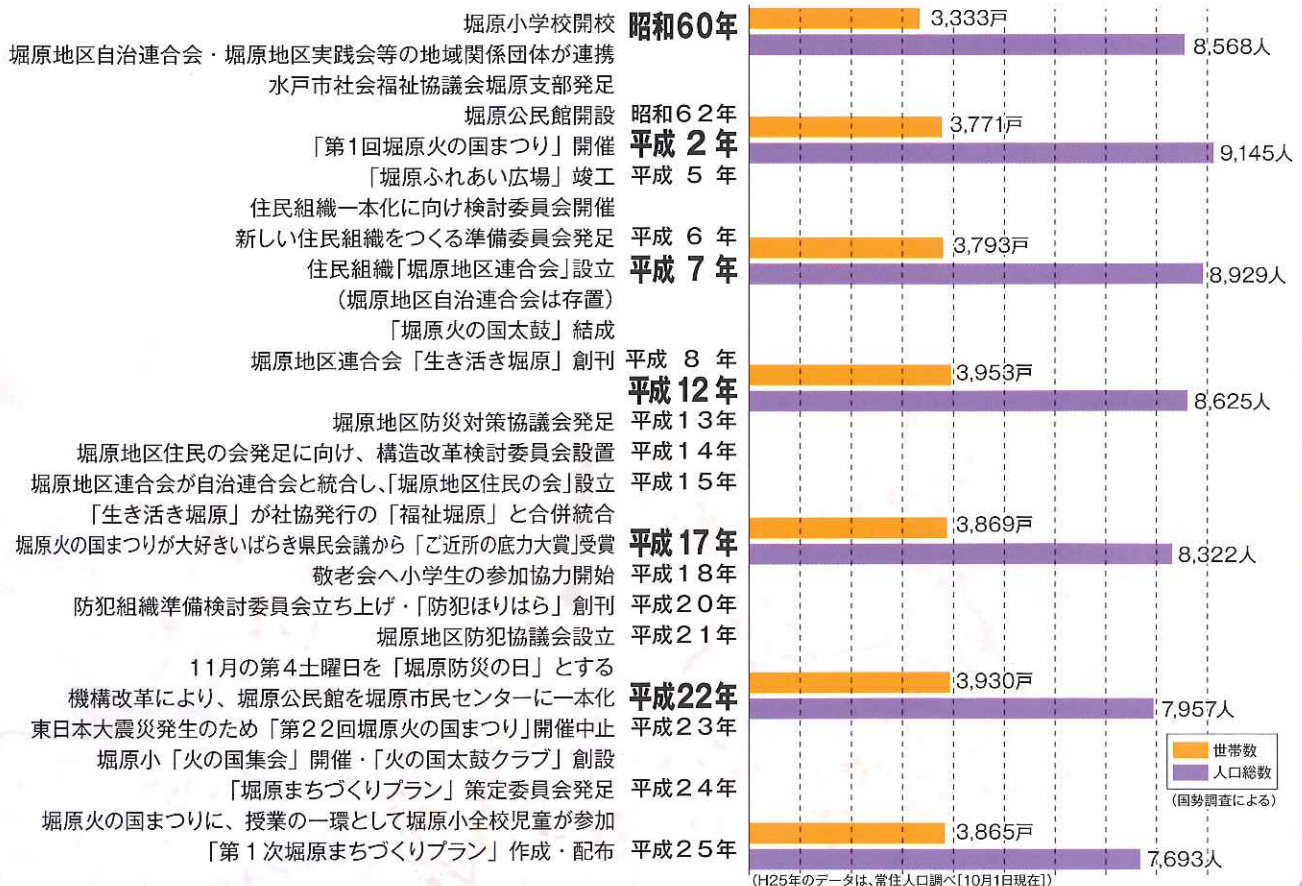
これまでは行政の仕事とされていたことを住民がどこまでやるべきなのか、これから議論が分かれるところだと思います。しかし少子高齢化、核家族化など社会の変化はいや応なしに進んでいます。「コミュニティプラン」に取り組み、町内会・自治会、地域内の様々な団体、拠点としての市民センター、地域のあり方など、今話し合うことは私たち地域住民にとって重要なことではないでしょうか。

このようにして「堀原まちづくりプラン策定委員会」は2年をかけてプランをまとめました。堀原地区の現状を把握し、何が良くて何が不足か、抱える課題は何か、今後できることは何か、など多方面から検討しました。「こんなにたくさんのことができるのか」と皆様を感じることでしょう。策定委員は、地域の活性化に少しでも良いと思うことは入れました。5年後、10年後の堀原を描いて重要なものから着手し、プランそのものは実施段階で見直し第2次、第3次と発展させながら進めていくものだと思います。実施には地域に関係するすべての団体に協力を求めるとともに、行政にも積極的な対応を求め、出来るものから実施して行きたいと考えております。

「堀原に住んで良かった」と思えるまち。それを考え、実施することに、自分のこととして一人でも多くの方に加わってほしいと願っています。

堀原地区住民の会 会長 高畑健兒

堀原地区の沿革と人口



策定委員 (2013.3.5現在) 桑名 賢 高畑 健兒 関 育夫 横山 秀峰 飯塚 信夫 山本 文雄
 寺門 正秋 山崎 登 増田 浩一 相羽 晴子 小森 朋子 川嶋ひろみ
 桑名 昭子 市瀬智津子 倉岡 美佳 根本 昌範(五中) 久保田由美子(堀原小) 入野 洋一 武田 伸一
 福地 東男 板橋 一郎 清水 昭昭 山内 繁 住谷 勇二 山崎百合子

堀原まちづくりプラン策定委員会
 事務局:堀原市民センター内(TEL:252-2750)
 2013年(平成25年)12月発行

ここに住んでよかった

第1次堀原まちづくりプラン

補足説明書

このプランは、「堀原に住んで本当に良かった」と誰もが思うまちを実現するため、近い将来の堀原の姿を思い描きながらいろいろな課題を6つに分類して、その解決に向けた目標や手段などを示したものです。

堀原地区住民の会の専門部を中心として、12の関連団体と町内会や自治会、地区内の学校や有識者、そして地区内にあるいろいろな施設の関係者などが協力して、この実現に向けて出来るものから計画的に活動を開始することが望まれます。このまちづくりプランの実現に向けた活動や住民の皆様のご意見やご提案を頂くために、ご理解とご協力をいただきたく地区内のご家庭などに配布しております。

今後、折りにふれ、まちづくりプランについての説明や意見交換の場を設けていきますので、この補足説明書とともに、目につきやすいところに掲示するなど保管して頂きますようお願いいたします。

堀原まちづくりプラン策定委員会

堀原まちづくりプラン策定委員会の構成団体などは、以下のとおりです。(順不同)

- ・堀原地区住民の会
- ・水戸市社会福祉協議会堀原支部
- ・水戸市堀原女性会
- ・堀原地区高齢者クラブ連合会
- ・堀原学区子ども会育成連合会
- ・水戸市立堀原小学校PTA
- ・水戸市立第五中学校PTA
- ・水戸五中学区青少年育成会
- ・堀原地区スポーツ推進委員会
- ・堀原小学校施設夜間開放運営委員会
- ・渡里地区民生・児童委員連絡協議会
- ・水戸市保健推進員連絡協議会堀原支部
- ・堀原地区婦人防火クラブ
- ・水戸市食生活改善推進員会堀原支部
- ・堀原お父さんソフトボールの会
- ・水戸市立堀原小学校
- ・水戸市立第五中学校
- ・学校関係有識者
- ・水戸市堀原市民センター

みんなで参加する協働のまち

まちづくり本部の立ち上げと拠点の確保

- 住民の会の組織と関連団体との関係を双方から見直し改善をして、堀原地区内の全ての情報を一括して把握する「本部機能」を創設し、効果的に機能できるよう図る。
- 「本部機能」を動かしていくための事務局の拠点となる場所を確保する。机や椅子、文書類や事務用品のみならず電話やパソコンの回線、常駐する要員や運用等々についても検討・対応する。
- 堀原地区にある自然、公共施設、人材などを「地域の財産」としてとらえ、それらを存分に活かした「まちづくり」をめざす。
- 住民の会組織や関係団体を通して常時住民の意見の集約に努め、必要に応じて地区内全戸のアンケートを実施し、まちづくりに反映させる。

ひとり一役運動の展開

- 町内会加入の意義をアピールする方策を検討し、パンフレット活用などの加入促進策を推進する。
- 参加者が興味を持ったり意義を実感したり満足感を得ることが出来る様な行事運営を心掛け、「力を貸してくれる人」を地域の中に増やすことをめざす。
- PTAや子ども会などで地域と係わりを持っていた人達に、OBやOGとして無理のない形で協力して貰う人材バンクのような組織を作り、地域づくりを応援してもらう。
- 選択肢が多く、また参加しやすいボランティアの仕組みを発足させる。

情報の発信強化と活動の記録

- 住民の会の活動を情報面で支えている広報紙と回覧について、発行回数、内容、方法など改善、向上させていく。
- 地域の歩みや活動の記録を、地域住民のための身近で活用できる資料となる様に記録を残す。
- 広報、連絡、募集などに、ホームページの開設などインターネットを活用する。

思いやりとやさしさがあるまち

あいさつがあふれる地域づくり

- イベントや行事で集う機会のみならず、年代を問わず気軽に集えて憩える常設のコミュニティ・サロンのようなスペースを設ける。
- あいさつだけが目的ではなく、自然にことばを交わせるまちづくりのために、「あいさつの日」や「あいさつの週間」を設けるなど、啓発・普及に努める。
- 「水戸市安心・安全見守り隊」や「民生・児童委員連絡協議会」などと連携して、ひとり暮らしの高齢者など、時に助けを必要とする住民を見守り支援する仕組みを構築する。

子育て世代支援

- 子育て世代が地域に「知っている人」「知っている顔」の関係を多く作れるように、親子で気軽に参加できる催しなどの機会を増やす。
- 地域の年輩者が乳幼児を持つ親の相談相手となれるような窓口や機会を設け、核家族が増えるなかでも安心して子育てが出来るような環境づくりを図る。
- 高齢者が子育て世代との交流を通して、子育ての知恵や経験を伝えることが出来るような場を作っていく。
- 登録ボランティアや関連団体などと協力して、読み聞かせなど子育て世代を支援できるような活動を充実させる。

高齢者の生活や生きがい活動支援

- ひとり暮らしの高齢者が困りごとを相談したり手助けを受けたりできる様な仕組みを作る。
- 高齢者クラブなどが進める友愛訪問活動などを支援して、普段から高齢者世帯と声をかけ合うご近所のつながりを育て保つにはどうすれば良いのか、地域の課題として取り組む。
- 地域づくりを多くの人に少しずつの負担で支えて貰うために、高齢者でも無理なくできる役割を引き受けて貰うボランティアの仕組みを作る。

健康で生きがいのある明るいまち



健康、体力づくり運動の推進

- 市民運動会に、地域の皆さん（子どもから高齢者まで）ができるだけ多く参加できるように、種目や運営などを再検討する。
- 「歩く会」の目的地や内容を再検討して、変化に富む催しにする。また、新たな健康ウォーキングの開催を検討する。
- 老若男女誰もが参加し楽しめる地域スポーツクラブの設立をめざして、先進地を調査する。

「ふるさと堀原」づくりの定着

- 「堀原火の国まつり」は、堀原小学校の全校生参加の行事となるなど広がりを見せている。さらに、中学生や卒業生も含め「みんなが年に一度顔合わせに帰ってくる場」となるよう、創意・工夫を重ねていく。
- 「夕涼みの集い」に短冊づくりやゲーム等のコーナーを設け、参加した誰もが楽しめる集いにする。
- 茨城大学や常磐大学等と連携し、学生などと地域住民が一体となった交流イベント等を計画する。

文化、生涯学習活動の推進

- 「堀原大学（高齢者学級）」や「カラオケ交流会」等を通じて、高齢者のきずな、交流を深める。
- 「堀原芸術祭」や「お飾りづくり教室」等の事業を市民センターと住民の会が協力して継続して開催する。
- 見たり体験できる講座見学の機会を設け、市民センターの講座・クラブへの参加者を増やす方策を講じる。また、募集要項の見直しも行う。

安全で安心して暮らせるまち **防災 防犯**

防災組織の充実と情報伝達

- 震災の教訓をふまえ、災害時に有効に機能する防災組織に改める。
- 既存の防災体制のもとで、情報の迅速な伝達をどうすべきか、災害時に地域で出来ることは何か、自発的な助け合いのために日頃からどのように備えるべきか等も併せ検討する。
- 防災訓練などの行事のより有効な実施と参加促進をはかる。

防犯運動の展開

- 防犯協議会の体制および活動内容の向上を図る。
- パトロールのほか、特に子どもたちのため、立哨、下校時刻の見守り、「子どもの安全を守る家」の拡大などに取り組む。
- 街灯設置が十分ではない箇所への設置について、地区全体の問題として考える。
- 市民センターでの掲示にとどまっている不審者情報等の、より広い情報共有の方法を検討する。

交通安全環境の整備

- 交通安全上問題のある箇所を指摘し危険マップを作成する。路上駐車は最大の課題として対策を強化する。
- 歩行者の安全を守るため、自転車のマナー向上と通学路の安全確保に努める。
- バス停や大学が近いことから、放置自転車の対策に力を入れる。

「堀原っ子」がのびのび育つまち



学び合う活動

- 学校(堀原小、水戸五中)と地域が、互いを補完・支援し合える体制をつくる。
- 学校のクラブ活動などの場に、地域ボランティアが手伝いとして出向くことによって、子どもたちの活動への幅広いサポートにつなげていく。
- 空いた教室を利用して、地域ボランティアの人材を活用した交流事業を行う。

助け合う活動

- PTA、子ども会、青少年育成会など子どもたちを支援する環境が手薄になっている現状があるので、地域による支援環境を強化していく。
- 地域の事業へ役割を明確にして子どもたちに参加させ、役割を果たすという経験による自立心の形成につなげていく。
- 子どもたちに昔遊びを教えたり、地域の昔話を聞かせたり、歌を聞かせたりすることなどを地域で行う。
- 見守り、声かけといった意識をご近所で育み、子どもたちが健全に育つ環境づくりにつなげていく。

きたえ合う活動

- 地区内のスポーツ少年団や他のスポーツグループとの連携を図り、スポーツにより親しめる環境を整えていく。
- より多くの子どもたちが放課後を安全に過ごせる居場所を作れないかを検討する。

環境にやさしいきれいなまち



住みよい環境づくりの推進

- 堀原地区一斉美化清掃を、今後も継続して実施する。「違反行為は見逃さない、許さない」という地域の毅然とした姿勢を示すため、違反広告物撤去活動も継続して実施する。
- 地域活動、地域の交流等の拠点である市民センターの清掃奉仕活動を継続して実施する。
- 犬のフンを放置する飼い主に対して、「放置はダメ!! 持ち帰る」という実効性のあるマナーアップ運動を推進する。

花のあるきれいなまちづくり運動

- 地区内の公園などやプランター設置場所を増やして季節ごとに花を植えて管理する「花いっぱい運動」と、公共施設をはじめ地区内の樹木等を大切に守る「緑を守る活動」に取り組み推進する。
- 「桜がきれいな堀原」を維持するため、保存活動などを推進する。市民センターの桜のライトアップ事業も継続して実施する。
- 地区内の唯一の河川である沢渡川を「住民の憩いの場」「親水公園」とするために、関連地域や行政と連携して実現を図る。

ごみのない環境にやさしい生活の推進

- 「環境問題研修会」で、リサイクル運動をしている子ども会や町内会・自治会等の活動事例などを紹介して、ごみ減量や環境問題の意識向上につなげていく。
- 各町内会・自治会でゴミ出しルール看板（町内会名、搬出の日時を明記）を作成、掲示して、ゴミ出しルールを徹底する。
- 資源ごみ等の回収は、子ども会や町内会・自治会の会員の交流、会の財源確保の場になっており、さらに資源ごみ回収運動の輪を広げる。また、廃食油のリサイクル運動を推進する。
- エコ活動として、市民センターなどで実施している緑のカーテンづくりのノウハウを地区全域に広げる運動を推進する。